

活動報告 — この9か月の歩み

● 公演事業

昨年12月には、湘南クラシック音楽を愛する会との共催により「古今の日本のピアノソナタ Vol.3」を開催しました。このシリーズは、日本人作曲家によるピアノソナタを継続的に取り上げるだけでなく、新作委嘱・初演・録音・CD制作へとつなげていくプロジェクトです。昨年は木下大輔氏に委嘱した《ピアノソナタ》を初演し、本年度は中川俊郎氏への新作委嘱も進行しています。

また今年4月には、「川畑哲佳、バッハ・リュート曲にピアノで挑む！」を開催しました。この企画は、若手・新進気鋭の演奏家を応援するとともに、まだ十分に演奏されていない魅力的な作品に新たな光を当てる試みです。日本人作品だけでなく、音楽史の中に埋もれているレパートリーを掘り起こし、新たな文化として発信することも、当会の大切な使命と考えています。

● 後援事業

当法人では、日本人作品の普及、知られざる作品の紹介、演奏家・研究者・教育者・愛好家の交流につながる公演やイベントについて、後援・共催・協賛などの形で連携を進めています。音楽絵本コンサート、バロック音楽公演、日本と台湾のピアニストによるジョイントリサイタルなどを後援しました。また、顧問の樋口紀美子先生のリサイタルでは、先生ならびにミリオンコンサート協会様のご厚意により、会員限定の特別優待も実現しました。今後も、会員の皆さまに良質な音楽と交流の機会をお届けしてまいります。

● 教育・交流事業

現在、「ピアニストのための室内楽・伴奏法セミナー」を開催しています。演奏技術だけでなく、人と人との関わりの中で音楽を深める学びと交流の場として、今後も充実を図ってまいります。

● 録音・配信・出版事業

録音・配信・出版事業も着実に進んでいます。日本人作品を中心としたアルバム制作や配信に加え、J.S.バッハのリュート作品を鍵盤奏者向けに編集した楽譜集を刊行しました。また、音楽絵本シリーズ『ブルグミュラー絵本』は台湾の出版社との契約が決まり、今年度中に台湾語版が刊行される予定です。日本で育まれた音楽文化を海外へ届ける新たな一歩として、大きな期待を寄せています。



古今の日本のピアノソナタ Vol.3

川畑哲佳、
バッハ・リュート曲にピアノで挑む！ブルグミュラー絵本の日本語版・英語版
台湾語での発売は今年～来年度見込み

これからのプロジェクト

● 第2回 ピティナ公開録音コンサート「日本人作品のタベ」

当法人主催事業として、第2回ピティナ公開録音コンサート「日本人作品のタベ」のオーディションを実施しています。ピティナ・ピアノ曲事典編集部のご協賛をいただきながら、日本人作品を演奏し、公開録音という形で広く発信していく取り組みです。

● 日本人作品フェス！ JAPAN PIANO FIESTA

9月6日には、雑司が谷音楽堂にて「日本人作品フェス！ JAPAN PIANO FIESTA」を開催します。プロ・アマを問わず、日本人作品を愛する人々が集い、演奏を通じて交流する新しい形の音楽イベントです。レクチャー企画や作曲家からのビデオメッセージ、来場者参加型の企画なども準備を進めています。

● 日本人作品フェス！ in 関西

2027年3月27日に神戸・ロッキーマンホールにて開催することも決定しました。関西縁の作曲家の特集など計画が進んでいます。

● 日本ピアノフェスティバル・コンクール（仮称）

2027年3月20日には葛飾シンフォニーヒルズアイリスホールにて「日本ピアノフェスティバル・コンクール（仮称）」の開催を計画しています。通常のコンクール部門に加え、新作委嘱初演部門や審査のないガラコンサート部門を設け、「フェスティバル」と「コンクール」を融合した新しい概念——「フェスコン」——を提案していきます。現在、新作委嘱プロジェクトの参加者も募集しておりますので、ご関心のある方はぜひご参加ください。



フェスコンとは？

「フェスティバル」と「コンクール」を融合した新しい概念。順位だけではなく、作品・表現・人との出会いを大切にし、ともに音楽文化を育てていく場を目指します。

Fes-Con

交流から生まれる、次の企画へ

例会終了後の懇親会でも話題は尽きることなく、次の活動につながるアイデアが数多く交わされました。

当会は、演奏家、研究者、教育者、愛好家など、さまざまな立場の方々が集い、それぞれの知識や経験を持ち寄りながら、日本人作品と音楽文化の未来を共に育んでいく場でありたいと考えています。

第1回例会は、その第一歩として、会員の皆様と「この会をみんなで創っていく」という手応えを共有できた、大変意義深い一日となりました。

今後も、例会や演奏会、セミナー、イベントなど、さまざまな活動を通じて交流の輪を広げてまいります。ぜひ次のイベントにもご参加いただき、一緒に新しい音楽文化を育てていければ幸いです。



懇親会のひとコマ

会員向けサービスを
LINEで配信中！

演奏会優待やイベント情報など、お得な情報をお届けします。右のQRコードからぜひご登録ください。



Vacances Musicales



日本人作品と音楽文化の会

News Letter 第1号 2026年6月発行



第1回例会を開催しました！

— 学び、演奏し、語り合い、ともに音楽文化を育てる第一歩 —

2026年6月14日、かつしかシンフォニーヒルズ練習室1において、記念すべき第1回例会を開催いたしました。顧問・会員・関係者あわせて多くの皆様にご参加いただき、研究・演奏・交流が一体となった、当会らしい大変充実した一日となりました。ご参加くださった皆様、心より御礼申し上げます。

学びと対話から始まった例会

ご講話

座談会「なぜ私たちは日本人作品にハマったか」—そのきっかけと魅力—



高久 暁先生（日本大学芸術学部教授）



萩生 哲郎氏（ナクソス・ジャパン）／細谷 拓海氏（一般社団法人全日本指導者協会）
東館 祐真氏（東京芸術大学博士課程）／杉浦 菜々子（ピアニスト・当会代表理事）高久 弦太（当会代表理事）

配信・教育・研究・演奏・企画運営など、それぞれの立場から日本人作品との出会いや魅力について語り合いました。

会員によるミニコンサート

後半は、会員によるミニコンサートを開催しました。プロ・アマチュアの垣根を越え、近現代日本作品を中心に、中国作品や新作初演まで、多彩なプログラムが披露されました。

歴史に埋もれつつある貴重な作品から、現代の新たな創作へと連なる幅広いレパートリーは、まさに当会が目指す「作品との新たな出会い」を象徴するものでした。なかでも、木下正道氏作曲・高久弦太脚本による《新桃太郎》の初演は、作曲家・演奏家・創作者が協働する新しい試みとして、大きな関心を集めました。

■ 会員によるミニコンサート

中川俊郎：ソナチネ（Pf. 白井貴光）
石川義一：《人物組曲》より〈信長〉（Pf. 細谷拓海）
奥村一：ピアノのためのカプリッチョ（Pf. 清水知子）
山田耕筰：夜の歌1.2（Pf. 川村早苗）
汪立三：『東山魁夷画想』より「冬華」「濤声」（Pf. 近藤明菜）
木下正道（作曲）／高久弦太（脚本）：新桃太郎（朗読：木下正道、Pf. 杉浦菜々子）〈初演〉

